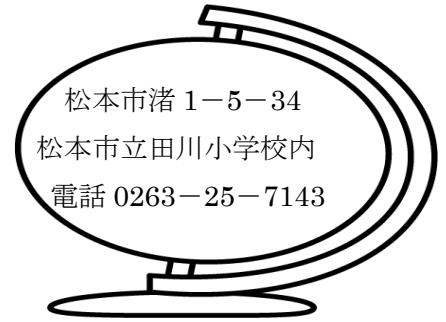


松本市子ども日本語教育センター便り

平成 31 年 2 月



松本市渚 1-5-34
松本市立田川小学校内
電話 0263-25-7143

年が明けたと思ったらもう 2 月も終わり。3 月に入ったらもう終業式まで秒読みですね。3 学期はいつもあわただしく感じます。

2 学期の終わりに来日、転入してきた子どもたちがいます。日本の冬の寒さに身を縮めています。雪が降ると覚えてたの日本語で「せんせい、きのうのきのう、ゆきです！」と話しかけてくれました。「話したいこと」があり「話したい相手」がいることは日本語学習のモチベーションになります。初めての雪に何を思ったでしょうか。日本語が使えるようになったらどんな話をしてくれるでしょう。

「教頭会人権教育全体研修会」を終えて

1 月 18 日（金）、教頭会人権教育全体研修会の場でお話しする機会をいただきました。事前アンケートの内容をふまえて「日本語を学ぶ子どもたち～外国由来児童生徒の日本語教育とその現状～」という表題でお話させていただきました。

センターのあらましについて、設立に至った経緯や松本市と中信多文化共生ネットワーク（CTN）の協働の内容を紹介したあと、日本語教育についての基礎知識、そして子どもたちの困り感や発達に特性があると思われる子どもたちについて、また、中学生の進路選択などについて、具体例を交えながらお話ししました。

事前アンケートでいちばんご要望が多かったのは子どもたちの困り感がどういうものか、ということでした。私たちの当たり前は彼らの当たり前ではないということが実はたくさんあります。



文化の違いと一言で言いますが、慣れ親しんでいる文化を改めて見直すのは難しいものです。そのあたりのことを少しでも詳しくお話してきたのではないかと思います。

研修後、学校訪問などでお会いした先生方から多くの反響をいただきました。中でも少なからず聞かれたのは「“同化”ではなく“共生”という言葉が印象に残った」というものです。日報でご紹介くださった学校もあります。多くの気づきがあったとうかがい、私どもも情報と認識を共有することの大切さを改めて学びました。

多様性の時代と言われます。「違いを認め受け入れる」ことが今後一層求められるのではないのでしょうか。

特性があると思われる子どもや中学生の進路選択については、今後も引き続き検証、研究が必要な分野です。学校の先生方と情報共有、忌憚ない意見交換を今後もよろしくお願いいたします。

研修当日、日本語教育 Q&A や関連機関連絡先等の情報も別添資料として配布しました。必要な情報が一まとめにしてありますので、保存版としてお取り置きいただきご活用ください。

子どもたちの姿から

先日、支援を1年前に終了した中学生がセンターに顔を出してくれました。背丈も伸び日本語も流暢に話していたA君。心なしか自信に満ちたように見えました。日本に来てからのことを振り返ったり、日頃の学校生活のこと、勉強のこと、部活のことなどとりとめのない世間話をしていきました。

来日して日本語学習がスタートした頃は、適応に苦労した時期もあり苦悩する姿を見ていただけに、今回落ち着いて爽やかな表情で話すA君を見て、うれしくなりました。ここに至るまで、本人の努力はもちろん、学校の先生方やお家の方が真剣に向き合ってくれたからこそ、今のA君があるのだと思いました。

彼が最後にこう言いました。「先生たちの仕事（日本語支援）はとても大事な仕事だと思います。ぼくも、将来言葉に関する仕事につきたいと思っています。」彼からもらったすてきなエールを胸に、私たちも頑張ろうと気持ちを新たにしました。



やさしい日本語を使ってみよう

前号の「やさしい日本語」の問題、いかがでしたか？簡単？いやいや、なかなか難しい？解答は下をご覧ください。あくまで一つの解答例です。周りの人とお互いどんな答えを考えたか、話してみるのも面白いですよ。!(^)!

問題) (保護者と話すとき)

サントスさんのお母様ですね。お忙しいとは存じますが、一度学校の方へ来ていただけると当方としましてもありがたいのですが…。

⇒ サントスさんは忙しいです。でも、学校へ来てください。学校で話しましょう。

やってみよう！ その2

問題) (子どもに指示を出すとき)

「今から漢字のテストをするので、机の上は鉛筆と消しゴムだけにして、隣の人としゃべるのをやめて、黒板に書かれた注意をよく読みながら、試験開始までしばらく待つように。」

解答例は次回のセンター便りにて。(ヒント：なるべく単文(主語と述部が1組だけ出てくる文)にする。)

⇒ _____